

# 花の苑タイムズ

九月十九日 敬老の日を祝賀

## 高崎チンドン倶楽部が来苑

高崎花の苑では、高崎チンドン倶楽部を昨年引き続き迎え、九月十七日、敬老の日になみ祝賀行事を開催しました。上州ちんどん宣伝社「高崎チンドン倶楽部」は現在、県内を中心に活動している人気一座で各種のお祭り、イベントの他、施設慰問など活動範囲を広げています。

一方で、幼少の頃チンドンの楽しさ、演技の楽しさを知って育った世代の人にとっては大変懐かしいもので、昭和の遺産ともいえます。

**昭和の遺産チンドン**  
この日は一号館と二号館が連なる共有スペースに、各ユニットから利用者様が集まり、待機する中、チンドン倶楽部の皆様がああ独自のスタイルで現れると盛んな拍手が巻き起こり、昭和の歌謡曲を演奏しながら行進すると皆さん楽しい笑顔になり、熱気に包まれていました。

またお部屋で過ごされている方のために、個室まで回って頂いたり、誕生祝いや「別掲」記念撮影なども行いました。

この他、九月十九日の敬老の日を中心に、二号館の各ユニットでは「敬老会」と称してイベント（別掲・裏面）を開催し、各利用者様の健康と長寿を祝いました。

**「百一歳の誕生祝い」**  
Aユニット小柴ふみ子様、百一歳の誕生日を記念し、「高崎チンドン倶楽部」様と記念撮影を行いました。（写真右下）

当施設で十日間のボランティア（見守り介助等）を体験された瀧澤憲悟君（パース大学三年生）からこのほど、ボランティア受け入れのお礼と感想を記した葉書が施設に届きました。

瀧澤君は現在、パース大学で理学療法士を目指し就学中です。

葉書には、ご利用者への傾聴や介助の他イベントの手伝いなどを通じ、貴重な経験が出来たとの感想と、卒業後は福祉業界で高齢者のリハビリに取り組みたいとの抱負が綴られていました。

将来のご活躍とご健闘をお祈りしています。

**「生命の賛歌」**  
夏至が過ぎ、太陽が南半球への足どりを始め、立秋を過ぎるあたりでも草木の生命の謳歌が聞こえてくる。

野山の草木の多くは、秋になると大地に種を落とす。又、あるものは地べたに這いつくような格

好をしながら、あるものは中天にまで伸びた枝先に、それぞれが、それぞれの実を結んでいる。大あり小あり、色も様々である。が、形・色・大小を超越して、等しく生命の賛歌を贈らないではない。

**試練に耐えて結実**  
風雨・乾湿・冷暑など容赦なくふりかかる厳しい自然の試練に等しく耐え抜いての結実だからである。

大地のものとなった種は、凍てつく大地の中でその小さな営みを放棄することなく春を待ち続ける。

やがて、太陽がその高さを日毎に高め、凍てつく大地がゆるむと、春雨が眠っていた生命を静かに静かに呼びさますように大地を潤す。

**自然の神秘を敬う**  
この生命の営みを、受け入れて育む自然の神秘さと偉大さには、畏敬の念をいだかずにはいられない。

（社会福祉法人健全会 理事 秋山末司）

平成28年10月10日発行  
第25号  
〒370-0002  
高崎市日高町433-1  
TEL:027-329-7211  
社会福祉法人健全会  
特別養護老人ホーム  
高崎花の苑広報委員会

